

平成16年2月16日

各位

オリエンタル酵母工業株式会社
東京都板橋区小豆沢3-6-10

北山ラベス株式会社の「伊那バイオセンター」開設に関するお知らせ

オリエンタル酵母工業（株）（本社：東京都板橋区、社長：内藤利邦、資本金：26億17百万円）は、当社の子会社である北山ラベス㈱が、バイオ関連事業の拠点として新たに「伊那バイオセンター」を開設致しましたので、お知らせいたします。

記

1. 北山ラベス㈱の概要

動物実験用ウサギのブリーディングを事業の中核に昭和40年に発足。現在は動物実験用SPFウサギの生産販売のほか、臨床診断キットおよび研究用試薬としての抗体作製などを手がけております。

資本金	1億72百万円
売上高	18億円（平成15年度3月期）
従業員	105名
本社所在地	長野県伊那市大字伊那3052-1

2. 同社のバイオ事業

ウサギに抗原を免疫して得られるポリクローナル抗体を診断薬原料として供給したことに始まり、マウスを使ったモノクローナル抗体（臨床診断キットおよび研究用試薬）の生産を実施してきました。平成7年頃からは、細胞培養法による抗体生産を開始し、現在では遺伝子組換え細胞（昆虫細胞、哺乳動物細胞）の培養による蛋白生産および蛋白精製も手がけ、オリエンタル酵母工業㈱が展開するバイオ研究支援事業の中核的位置を占めています。

3. 「伊那バイオセンター」開設の目的

バイオ事業の需要拡大に伴い、本社に隣接して設置していた抗体作製の従来施設が手狭になったこと、加えて顧客要求の高度化から伊那市春近に別途展開していた細胞培養施設と統合した施設を立ち上げる必要が生じたことから、伊那市西箕輪に「伊那バイオセンター」を新たに設置し、事業の更なる拡大を目指すこととしました。

また新たに発熱性物質試験に新規事業として参入を図ります。
発熱性物質試験は、製薬メーカーにおいて医薬品の製造開発や品質管理で重要な役割

を果たしていますが、薬事法改正に伴う規制緩和の実施に伴い、今後アウトソーシングの道が開けることが予想されることから「伊那バイオセンター」開設に合わせてウサギを用いた発熱性物質試験の検討を開始し、新たに受託試験機関として参入を計画しております。(発熱性物質試験について現在は未認可)

更に、同社が動物供給業者として長年培った動物飼育ノウハウを活かした実験動物(ウサギおよびラット、マウス)のSPF環境での飼育受託も同所において強化します。

4. 伊那バイオセンターの概要

(1) 所在地 長野県伊那市大字西箕輪 8046-1

(2) 敷地面積 3,800 m² (1150 坪)

(3) 施設延床面積 2,046 m² (620 坪)

(4) 事業内容の詳細

① 抗体作製

- ・提供抗原(蛋白・合成ペプチドなど)を動物に免疫しポリクローナル抗体を作製します。またハイブリドーマ(提供または依頼により作製)を動物へ移植しモノクローナル抗体を作製します。細胞培養法での抗体作製も実施します。

② 発熱性物質試験

- ・自社生産動物(ウサギ)を用いて日本薬局方に準じGMP環境下にて実施します。

③ 飼育(レンタラボ)

- ・実験室および手術室を完備した飼育設備にて研究者の試験のニーズ(生体内に試料を埋込等)に対応し、飼育管理等の補助を北山ラベスが担います。

④ 細胞培養および蛋白精製(「伊那バイオセンター」での実施は第二次計画)

- ・遺伝子組換え細胞培養による蛋白生産、遺伝子組換え細胞の作製、ATCC等の各種細胞培養の業務、および抗体精製、蛋白精製、RNA等の調製も行います。